

経済情報

米国を巡るマネーフロー

～海外投資家の対米投資は米国債中心、米国投資家は新興国向けにシフト～

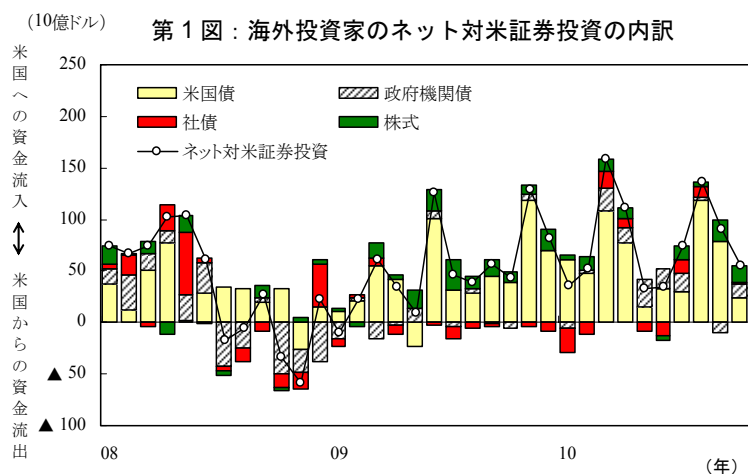
【要旨】

- ◇海外投資家による対米証券投資は好調に推移しているが、大半は米国債であり、リスク資産投資は低調である。米国債保有残高は中国がトップだが、英国の保有高が急増している。
- ◇米国投資家の対外証券投資は、これまでは欧州向けが中心だったが、欧州ソブリン問題への懸念が台頭した後は、ブラジル向け株式投資と、香港、韓国、インドを中心とするアジア向け株式投資が拡大している。
- ◇米国投資家の欧州周縁国向け証券保有残高は、株式保有が中心。
- ◇米国債投資の大部分は民間部門によるものだが、米国債価格の下落が続けば海外の民間投資家が米国債を投げ売りする可能性も大きい。

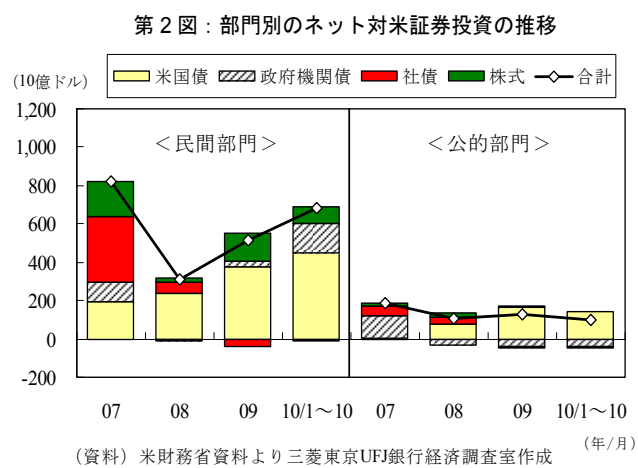
1. 対米証券投資の大半は米国債、リスク資産投資は低調

海外投資家による対米証券投資（中長期債、ネット・ベース、特記ない限り以下同様）が好調に推移している（第1図）。今年1～10月の買い越し額の累計は7,802億ドルと既に2009年通年（6,389億ドル）を上回っている。

ただし、買い越しの大半は米国債となっており、政府機関債、社債、株式は概ね低調で、金融危機前の姿とは大きく異なる。部門別にみても、公的部門、民間部門ともにネット対米証券投資は米国債が中心である（第2図）。

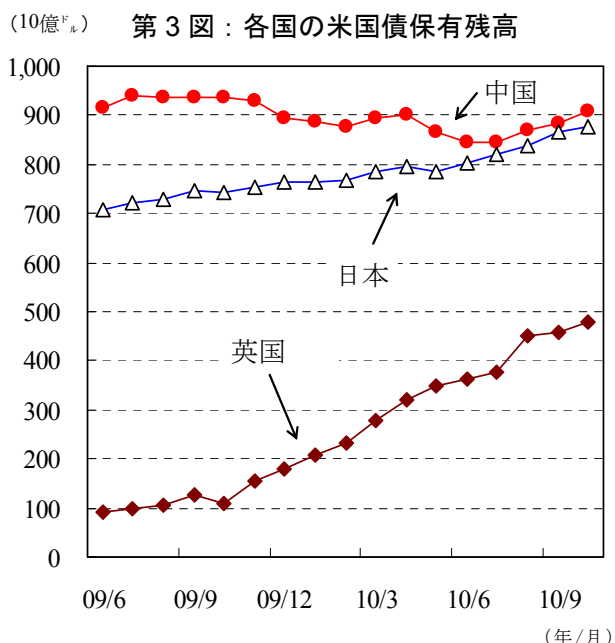


(資料) 米財務省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成



(資料) 米財務省資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

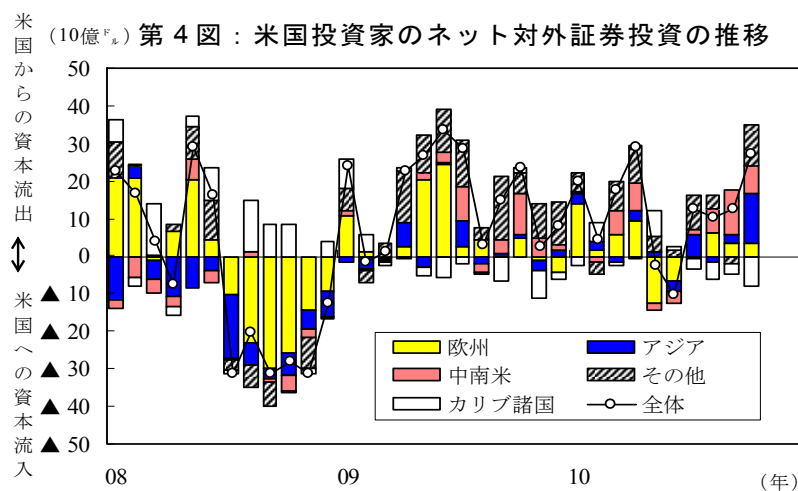
米国債の最大の保有国は依然として中国(9,068億ドル)であるが(第3図)、保有高が昨年から最も増加しているのは英国で、昨年10月の1,081億ドルから今年10月には4,776億ドルと急増している。英国は、オイルマネーや欧州の年金基金、ヘッジファンドの運用拠点であり、そうした投資家による米債投資増に加え、ドル買い介入を実施したアジアの当局が、介入資金の一部の運用をヘッジファンドに委託し、それが英国経由で流入している。



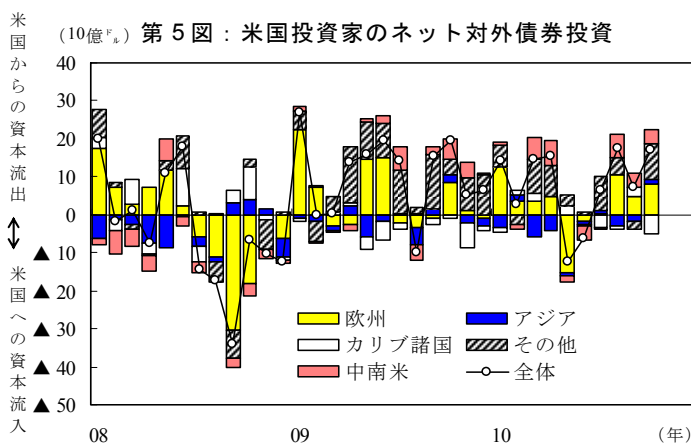
(資料) 米財務省資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

2. 米国投資家の対外証券投資は欧州から新興国へシフト

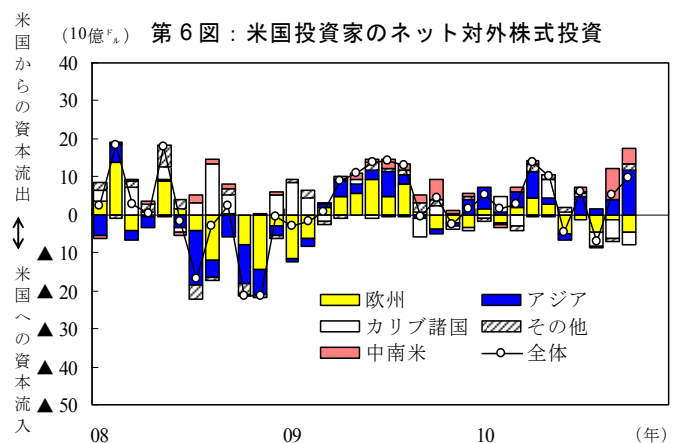
一方、米国投資家の対外証券投資についてみると（第4図）、グローバル金融危機後は欧州からの大幅な資金引き揚げを主因として売り越しが続いたが、2009年には買い越しに転じ、債券投資を中心に回復してきた。投資先は、当初は欧州投資の再構築が多かったが、年後半以降は、中南米向け債券・株式投資と、香港、韓国、インドを中心とするアジア向け株式投資が拡大している（第5図、第6図）。財政問題への懸念が続いている欧州から、好調な経済成長と金利水準の高さを背景に高い投資収益が見込まれる新興国へと、米国投資家の投資姿勢が変化している様子が窺われる。



（資料）米財務省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成



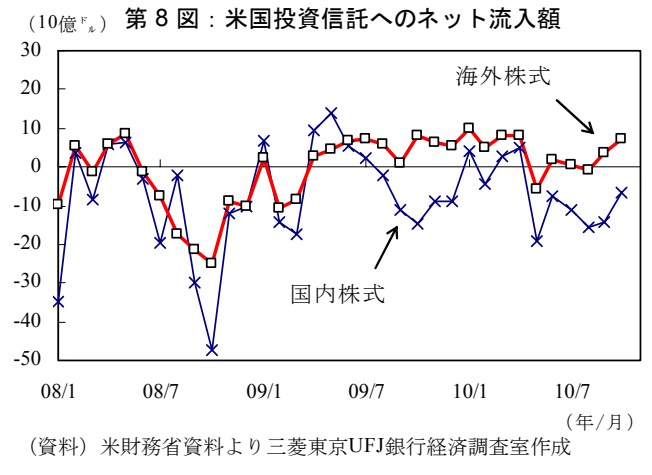
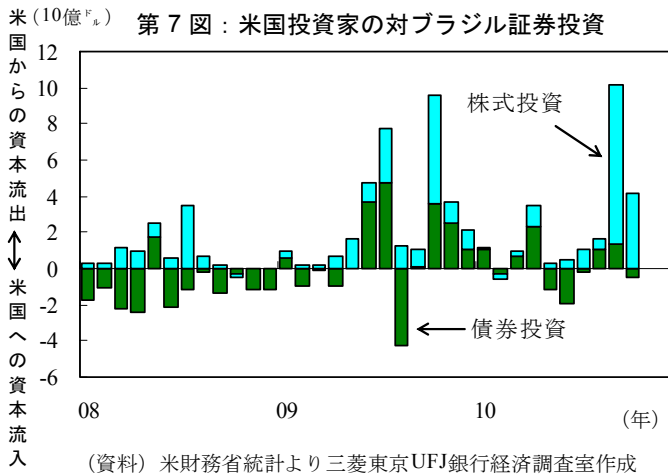
（資料）米財務省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成



（資料）米財務省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

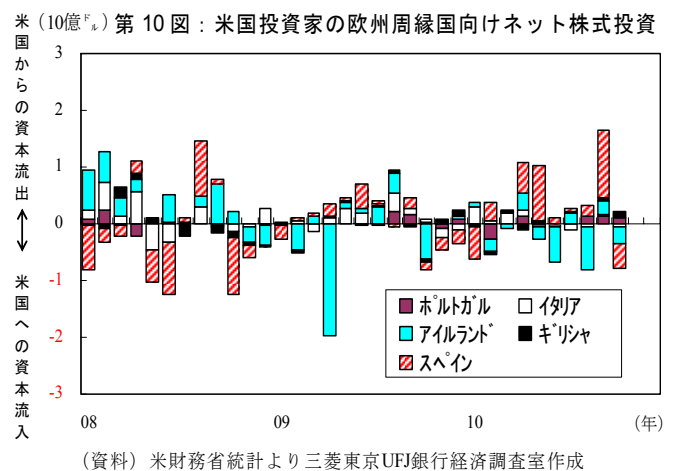
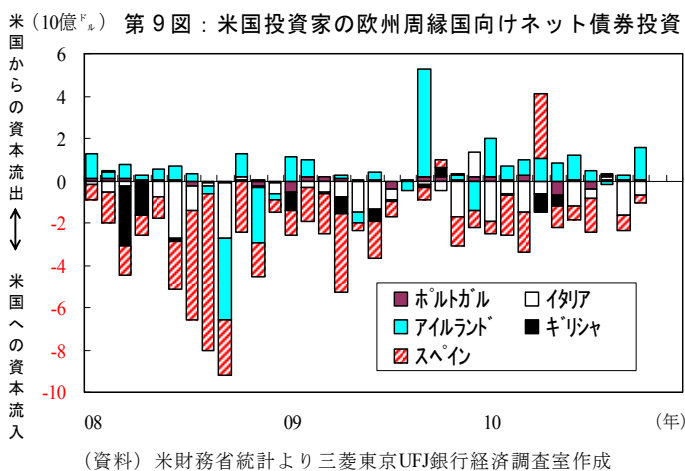
中南米向けとは主にブラジル向けである（第7図）。ブラジル向け証券投資は、昨年後半から増加が目立ち、今年9月にはブラジル株式投資が過去最高を記録した。引き続き10月も高水準となっている。米投資信託協会（ICI）のデ

一タによれば、海外株式中心の投資信託へのネット流入額は堅調に増加していることから（第8図）、主に投資信託を通じたブラジルやアジア向け株式投資が増加しているとみられる。

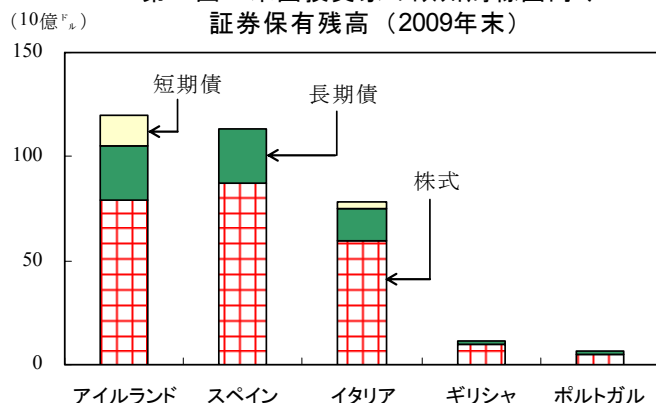


3. 欧州周縁国向け米国投資家の動向

財政問題が懸念される欧州周縁国（ポルトガル、アイルランド、イタリア、ギリシャ、スペイン）向けの証券投資をみてみると、5カ国の中ではスペイン向けが最も大きい。グローバル金融危機以降、5カ国向け債券投資はアイルランドを除いて概ね売り越しが続いている一方（第9図）、株式投資については4月以降スペイン向けの買い越しが比較的大きく（第10図）、ユーロ安を機に米国投資家が買い増したとみられる。なお、米国投資家による5カ国の証券保有残高は、主に株式保有となっており（第11図）、5カ国合計の証券保有残高は3,296億ドルとドイツ（2,940億ドル）を上回っている（第1表）。



第11図：米国投資家の欧州周縁国向け
証券保有残高（2009年末）



(資料) 米財務省資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第1表：米国投資家の外国証券保有残高（2009年末）

順位	国名	残高(億ドル)
1	英国	9,580
2	カナダ	5,400
3	日本	4,190
4	ケイマン諸島	3,730
5	フランス	3,620
6	欧州周縁国	3,296
7	スイス	3,050
8	ドイツ	2,940
9	豪州	2,760
10	オランダ	2,330

(資料) 米財務省資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

4. おわりに

米国債投資の大部分は民間部門によるものだが、足元の米長期金利はブッシュ減税延長などによる財政悪化懸念や景気回復期待から急騰しており、米国債価格の下落が続けば海外の民間投資家が米国債を投げ売りする可能性も大きい。

また、米国投資家は、アイルランドとスペイン、イタリアの株式を多く保有しているが、今後の欧州ソブリン問題の動向次第では損失が発生するおそれがある。

(12月21日 篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp)

発行：株式会社 三菱東京UFJ銀行 経済調査室
〒100-8388 東京都千代田区丸の内 2-7-1

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。